

詩篇 1 篇

2013年9月29日

序章

詩篇は聖書の中でも私のお気に入りの書物です。神様を讃え、祈り、感謝する詩であふれています。しかしそれだけではありません。詩篇は私たち人間の日々の生活における真の感情と思想、経験をふんだんに表している書物でもあります。率直に言うと私たち人間の日々の生活は時にとても乱雑で混乱に満ちています。私たちの生活にある、喜びや痛み、悲しみ、自己認識、自信喪失、愛、憎しみ、怒り、信頼と疑い、これらはすべて詩篇の中に混ぜ合わさって表わされています。詩篇を最初から最後まで読むことは、まるで長い旅に出るようなものです。

本日説明する詩篇 1 篇は、私たちの混乱に満ちた生活と神様との関係、また、詩篇全体をどのように読めばよいかについて、重要なことを教えています。まず、詩篇は、私たちの豊かな生活、つまり成功と幸せな生活とは、神様との関係に基くとはっきり述べています。これはうれしいニュースです。しかし、残念なニュースは、このような関係を持たない人は滅びる、つまり死んでしまうということです。

1. 私たちは何を“喜ぶ”のか？ (1 篇 1 節から 3 節)

1 節は“幸い”という言葉ではじまっています。これは従うは幸いであるという意味です。そして、そのとき、私たちの生活は真の喜びと幸せ、義に満ちていることを示しています。そして、3 節は幸いな生活を営むものは栄えると結論付けています。

1 節は、否定的な表現を用いて“幸いな生活”を説明しています。まず最初に肯定的な表現を使っている 2 節と 3 節を見ていきたいと思えます。

“2まことに、その人は主のおしえを喜びとし、 昼も夜もそのおしえを口ずさむ。”

そもそもヘブライ語でおしえとはトーラーTorahで、もともと旧約聖書の最初の5つの書物（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）を指していました。しかし、このトーラーTorahは聖書のあちこちで使われる様になり、もっと一般的な意味、つまり神の私たちに対するおしえや戒めという意味になりました。詩篇の19篇と119篇をみるとそのことがよく分かります。そこでは人々は神のおしえに注意を払い心を尽くして応えるべきであると促しています。また、新約聖書の第2テモテ3章16節から17節は、聖書は教えのために有益であり、だからこそ聖書の言葉はすべて重要であるとい

っています。

“16聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。17それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。”

聖書にあるように、今日、トラーは神の私たちに対するおしえであり戒めであることは理解できました。では詩篇は幸いな人々は聖書の言葉をどう使用するべきだといっているのでしょうか。それは、2節を見ればわかります。そして、そうすることは誰にとっても至難の業です。それは“おしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ”です。

これは英語の授業ではありませんが、わたしは英語をおしえるのが好きですし、重要なことだと思いますので、ここで時間をとってこの“よろこぶ”という単語についてミニ英語レッスンを行いたいと思います。辞書でよく調べてみると“よろこぶ”はこのように説明されていました。

“非常にうれしい”

“楽しい”

“満足”

“高い歓喜をもたらすもの”

そしてこのような例文が出ていました。

“彼女は田舎道での長い散歩を楽しみます”。

わたしだったらこんな感じでしょうか。

“アンドリューは映画を楽しみます”

”アンドリューは日本語教会のおいしいランチを楽しみます“

”アンドリューは徹夜でカラオケを楽しみます“

ではなぜ私がこのような活動を楽しんでいると分かるのでしょうか。それは、まずそうすることが”大好き“であり、時間があればやりたいと思うからです。残念ながら徹夜のカラオケはそうそうやることはできませんが。そして、人は喜びに対し率先して時間を作ろうとします。見たかった新しい映画が来れば計画を立て、友達とスケジュールを組んで見に行こうとします。

詩篇の1篇2節に戻り、この”よろこぶ“の定義を当てはめてみましょう。残念ながら、先に述べたよろこびに比べ、神様と神様の言葉、聖書に対する私のよろこびはだいぶ欠けているように思えます。

”聖書を読む時間は取りますよ。でも、まず...をやってからね。”

”聖書を読むのは好きなんだけど、今ちょっと忙しいから．．．“

”聖書を読みますよ。でもちょっとくつろいでからね。“

わたしと同じようにこのようなセリフをどこかで言ったことはありませんか？しかし、詩篇の1篇によると、幸いな人はおしえを口ずさむ（メディテーション）といているのですから、とても興味深いです。ここで使われているメディテーションとは禅のトランスのようなものについていっているのではなく、何かについて、深く考え聖書の言葉に注意深く耳を傾け、神のおしえを探求することを指しています。また、2節の終わりでは”昼も夜も“とっています。直訳すると四六時中という意味になりますが、これは必ずしもそうではなく、それほど神のおしえに没頭しているため、心と体、生活のすべてがおしえによってどんどん成長し形を成していく状態を示しています。

そして3節ではよろこびがどのような結果をもたらすかを述べています。

”3その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。”

とても分かりやすい例だと思います。神のおしえは肥沃な土地で、そこには良質の水がふんだんにあり、まさに、木が成長するのにもってこいの場所です。この木は強く、葉は枯れず、そして一季節が来ると（つまり時が来れば）実がなります。

植わっている、という動詞に注目してみましょう。庭師は植物を植えます。そして、どこに植えるのか、選択肢をもっています。よい庭師もいれば、よくない庭師もいます。わたしの母はとてもよい庭師で、庭に関する様々なことに興味がありました。いつも違う花々や木々をみつけては私におしえてくれました。この点でわたしは母とはだいぶ異なります。というのも、植物や庭に関してわたしはまったく不向きで、うちのベランダの植木も完全に枯らしてしまいました。まったく手をかけず、十分な水をあげなかったせいです。詩篇1篇はこのことをいっています。私たちは庭師で選択肢があります。神のおしえをよろこび、よい庭師になり自分自身を神のおしえに植えつけましょう。神のおしえこそが肥沃な土地です。別の土地に植えてしまうと、庭造りは無残な結果をもたらすでしょう。

2. 人生に関する二つの選択—あなたはどこに植わっていますか？ (1篇4節から6節)

後半では1篇4節から6節までを説明しますが、その前に、1篇1節について、いくつか解説したいと思います。1節は詩篇の二つの選択の対照性について、最初に述べた箇所です。先に述べたように2節から3節は幸いな生活について肯定的な例を用いて説明していますが、1節では否定的な例、つま

り従うべきではない例を用いて説明しています。1節には3つの例が挙げられていますが、ここでのポイントはつまり、悪には従うな、ということです。ある解説者は、“歩く” “立つ” “座る”と表現されていることから、この箇所は、高まる悪に対し、少しずつ身を低くしていくことを象徴している、と説明しています。悪の道を歩んだら、まず立ち止まってよく考えて、そして、それが間違いだと確証を得たら、その場に腰を下ろします。裁判所で判決を下された人々はどうでしょうか。例えば一度盗みを犯し裁判で有罪となった人は“不道德者”です。一度の盗みではなく、一生涯をかけて盗みを犯し続けた人々は“罪人”であり“常習犯”です。しかし、一度きりの罪や一生涯の罪を犯した人々よりも、積極的に義の生活をばかにしたり、ないがしろにし続ける人々のほうがたちが悪いかもしれません。幸いな人々は、しかしながら、そのような悪い道に外れることはありません。神のおしえをよろこび、戒めに従い、いつも神の示す道が何かを考え歩みます。

もし、1節のように行動してしまったらどうなるのか。それは1篇の後半の4節によく書かれています。3節には神のおしえに従った者は、しっかりと植えられ実がなり、栄える木になると書かれています。4節はとても強い口調で、“悪者とはそれとは違う”と述べています。3節とはまったく違う例えを用いて、悪者を表現しています。

“まさしく、風邪が吹き飛ばすもみがらのようだ。”

では、ここでもう一度英語レッスンを行ってみましょう。



もみがらのついていない穀粒



たたいてもみがらをはずす

最初にこれを聞いたとき、私は何のことが意味がわかりませんでした。皆さんもそうかもしれません。しかし、私が今から写真を使って説明すれば、きっと意味が分かると思います。麦や穀物を穀粒といいます。穀粒は殻、もしくはは包んでいるものと分ける必要があります。外側の殻をもみがらといい、重量的には粒よりもとても軽いのです。皆さんは脱穀を見たことがありますか？穀粒を空中に投げもみがらと粒に分けます。粒は地面に落ちますが、役立つのもみがらは風に吹き飛ばされます。これが4節で説明されている悪者の意味です。幸いな人々となんと対照的でしょうか。幸いな人々はがっしりと肥沃な土壌に根を下ろし、植わっており、良質な水を得て、永遠に枯れることはなく、強く生き続けます。しかし、悪者は中に舞って、乾いて根をおろすこともなく、死んでしまいます。風に吹き飛ばされてしまいます。

2つの選択について、5節から6節を見ると1節よりももっと分かりやすいかもしれません。私たちには義の道と悪の道が用意されています。悪は、神のおしえに根付かず、5節のもみがらのように風に吹き飛ばされます。終わりの日に最後の審判に立ち向かうことはできません。6節で示されているように、そのような人々は滅び（死に）うせてしまうでしょう。しかし、6節にあるように、主は正しい者の道を見守っておられます。日本人の皆さんにはこちらの直訳のほうが分かりやすいかもしれません：知っておられます。この知るという言葉は、単に情報をもっているのではなく、十分に経験し、深い関係をもつことを意味しています。知るについて、もっと理解を深めたい方は、詩篇の139編を読んでみてください。わたしたちの創造主である神は私たち自身よりも私たちのことをわかっておられます。よいときも悪いときも神は常にわたしたちと共におられるからです。これが知る、つまり関係をもつということです。関係はまた、1節に書かれている、義の者と悪い者との違いを示すのにちょうどよい言葉です。なぜなら悪者は神との関係を持っていないからです。

3. 詩篇全体を読んでみましょう

1篇のメッセージのかなめは、神を信じ、よろこび、神との関係を探求することです。そして1篇は詩篇の重要な序章でもあります。詩篇に書かれている詩は一つ一つがすばらしく、単なる詩として読んだとしてもとても有益です。しかし、それぞれの詩を聖書の書物、詩篇の詩としてもっと広い文脈でとらえ理解すると、さらに有益です。悪と義を比べ、主のみを信じるという助言を示す1篇と王である主に逆らう地の王たちを用いて悪と義を比べる2篇は、どちらも詩篇全体の序章です。実際、義の者が進む幸いな道と悪者が進むはかない道をテーマとした詩は詩篇のあちこちで見ることができます。112編の1節ではこうっています。

“ハレルヤ。幸いなことよ。主を恐れ、その仰せを大いに喜ぶ人は。”

73編で作者は、悪者が栄えることに憤慨しながらも、彼らの歩む道ははかないと断言しています。なぜなら彼らは神とは遠い位置におり、滅びうせる運命だからです。そして、神の近くにいる自分は正しいとうたっています。

34編10節でも同じようにこうっています。

“若い獅子も乏しくなって飢える。しかし、主を尋ね求める者は、良いものに何一つ欠けることはない。”

結論

おそらく、詩篇1篇には鍵となるメッセージが二つあると思います。一つは、私たちが現世をどう生きるかによって、死後の運命が決まるということで、もう一つは幸いな人々は悪の道を歩まず、立たず、座ることをしない、ということです(1節)。私たちがどう生きるかによって、栄光を手に入れ、神に知っていただくことができます。それは神を信じること、神のおしえをよろこぶこと、神との関係を探求することです。ポストモダン世界においては、私たちの生き方をそのように白と黒にはっきり分けることは難しいかもしれません。しかし、関係をもつという点においては、皆さんがその関係を望んでいるかどうか次第です。ここで、先週のヤング先生のお説教から何節かご紹介したいとおもいます。ローマ人への手紙は本日説明したことと密接な関係があります：

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。”

このように、主の御名を呼び求めるか求めないかは皆さん次第です。

しかし、勘違いしないでください。ここでは、正直に本当の真実を追い求めている人々に対し、考えることは無駄である、といているのではありません。ローマ人の他の箇所でも、人々がメッセージを聞き、理解し、考え、そして、ついに決定にたどり着くことがどれほど重要であるかについて述べています。おそらく、詩篇1篇のポイントは、人々は決定を下さなければならない、ということです。恋愛関係を例えにとってみましょう。お付き合いを始める前、もしくは始めてから、考える時間をもちなんらかの”調査“を行い、すべての”証拠“が集まったら、”調査結果“を見直し、決定を下します。この人は、私が愛し生涯をともに過ごすべき人だろうか？もし、Yesなら、婚約し結婚にいたります。もし、Noであれば、ただの友人としてつきあい、他の誰かを探します。もし、Noであるなら、その人との関係を続けるということは絶対によくありません。

少なくとも決定を下さなければならないという意味では、神様との関係に似ています。1篇は悪者の生活態度と生活習慣について注意を促し、そうするとどうなるのか、結論まで示しています。選択すべきは明らかです：幸いな人と義の人は神のおしえに自分自身を植えつけます。神のおしえをよろこび、そうすることにより神との関係を築きます。詩篇のメッセージはクリスチャンとクリスチャンではない人々両者に宛てたメッセージです。そもそも詩篇は神の民、イスラエルの民に宛てて書かれた詩でした。皆さんは、神を探求すること、生活における神のおしえと戒めによるよろこびを感じていますか？それとも悪の道を歩み、立ち、座ることを選んでいますか？ご自身を水路のそばに植えていますか？それとも風に吹き飛ばされるもみがらですか？もし、答えがまだ分からないという方は、それがあなたの人生にどれほど深刻に影響してくるかを考えてみてください。詩篇の詩を学び、益を得て、悪ではなく、神との関係に信頼をおきましょう。

アーメン